



Good Neighbors Japan

Good change for the World
グッドネーバーズ・ジャパン
年次報告書 2025.1-2025.12

2025





特定非営利活動法人
グッドネーバース・ジャパン
代表理事 小泉 智

小泉 智

日頃より私どもグッドネーバース・ジャパンにご支援・ご協力くださっている皆さまに、心より感謝を申し上げます。今年も、昨年一年間の活動をまとめた「年次報告書」をお届けいたします。

2025年、私たちは国内外でさまざまな人道・開発支援に取り組んでまいりました。国内では、コメの価格高騰が続く中でも、食品支援事業「グッドごはん」におけるひとり親家庭への食品配付量を維持し、質の改善にも努めました。また、能登半島地震に対する支援も継続し、子どもの心のケアやコミュニティの再構築を見守りながら必要な支援を届けています。海外では、飢餓の最も深刻な状態を示す「飢饉」が発生したパレスチナ・ガザ地区を含む、14の国と地域で食糧支援や教育支援、平和構築などの事業を展開しました。

食品支援を利用する家庭の子ども、能登半島地震で生活が一変した子ども、紛争により破壊された町で学校に通い始めるシリアの子ども。この一年、私たちは多くの子どもたちと出会いました。彼らはそれぞれに困難を抱えながらも、家族を思いやり、将来の夢に目を輝かせ、友達と笑顔で過ごす姿を見せてくれます。その姿には計り知れない強さと希望があります。

困難な状況に置かれていることは、決してその人自身の責任ではありません。貧困は、個人の努力不足ではなく、社会構造の中にある問題です。声を上げにくい立場の人々が、さらに沈黙へと追い込まれていくような構造を、私たちは見過ごしてはなりません。

子どもたちが見せてくれた強さや輝きが、奪われることのないように。私たちは、どんな状況にある子どもたちにも、未来を描く力と安心できる居場所が保障される社会をつくっていきたくと願っています。そして、世界が分断や対立に直面する中で、協力と共生の価値を大切に、誰もが尊厳をもって生きられる社会の実現を支援者の皆さまと共に目指してまいります。

今後とも力強いご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ビジョン・ミッション・バリュー

私たちグッドネーバース・ジャパンの支援は、子どもと子どもを取り巻く地域住民の生活環境の改善のため、子どもに焦点を当てた活動が中心です。子どもは国の未来・国の基礎であり、どのような教育を受けどのように成長するかでその国の未来が変わるからです。支援者の皆さまを始めとする国内外のパートナーと共に、すべての子どもたちが笑顔で未来を描ける社会を目指して、いま困難な状況にある人々に寄り添いながら活動に取り組んでいます。



理事・顧問

| | | | |
|-------|------------------------------|------|-----------------------------|
| 会長 | 姜 恩和 目白大学教授 | 監事 | 松本 吉広 黒光商事株式会社代表取締役／行政書士 |
| 代表理事 | 小泉 智 グッドネーバース・ジャパン事務局長 | 監事 | 戎井重樹 公認会計士 |
| 副代表理事 | 中間 恒輔 経営戦略コンサルタント | 法務顧問 | 金子 憲康 弁護士 |
| 理事 | Choi Mina グッドネーバースGPC事務局長 | 法務顧問 | 蔵元 左近 弁護士 |
| 理事 | 染葉 圭一郎 コンプライアンス・コンサルタント | 税務顧問 | いずみ会計事務所 |
| 理事 | 田丸 雅浩 危機管理コンサルタント | 労務顧問 | 浅井 浩次 特定社会保険労務士 |
| | | 財務顧問 | 株式会社Arriba |

目次

メッセージ 1

団体情報 2

2025年の活動 3

各国・地域の活動内容

日本 5

子どもスポンサー 9

ウクライナ 11

ガザ・シリア 12

エチオピア 13

モザンビーク 14

ネパール・バングラデシュ 15

ミャンマー・タイ 16

その他の情報 17

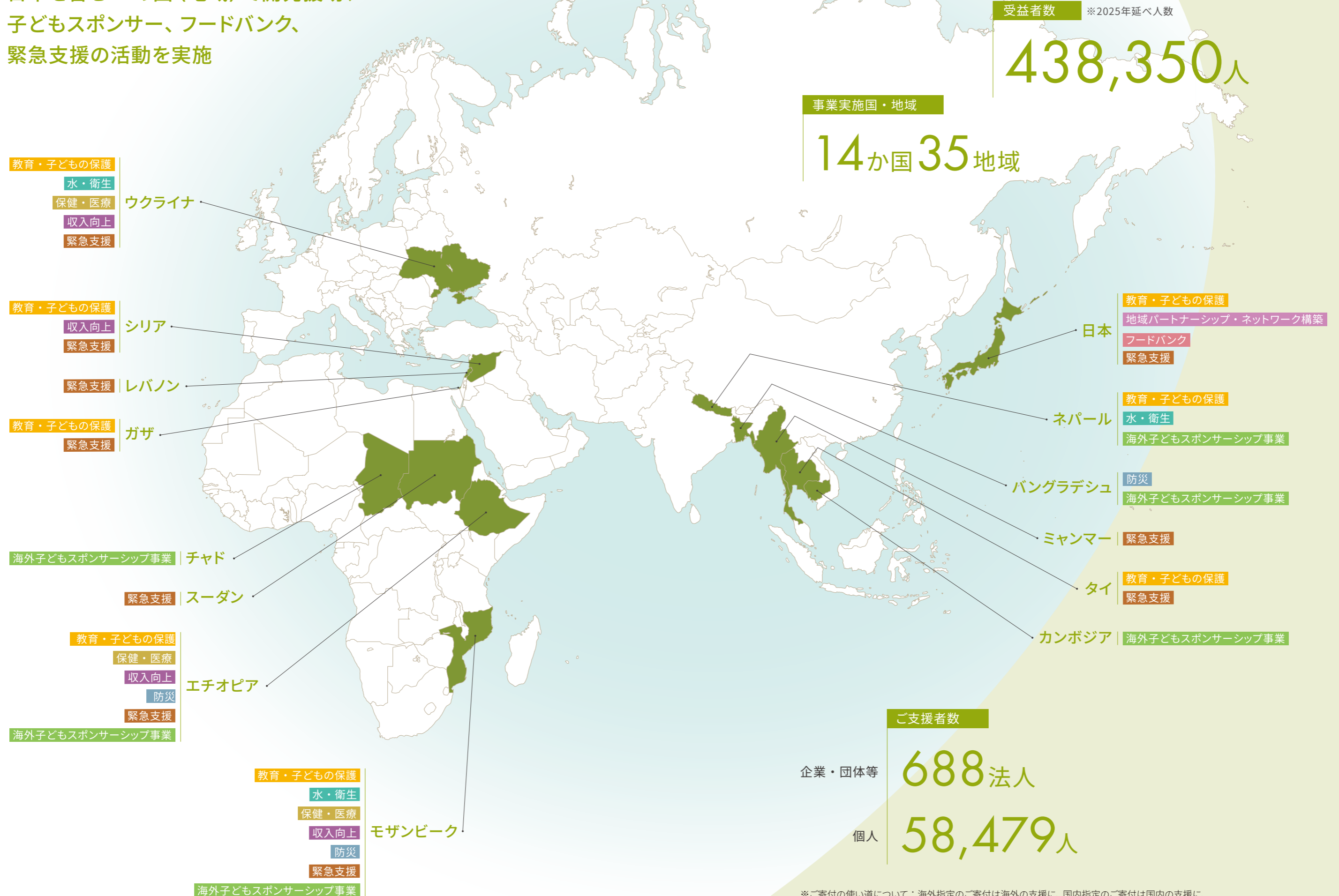
主なメディア掲載

ご支援・ご協力いただいた企業

その他実施事業

会計報告 18

日本を含む14の国（地域）で開発援助、子どもスポンサー、フードバンク、緊急支援の活動を実施



※ご寄付の使い道について：海外指定のご寄付は海外の支援に、国内指定のご寄付は国内の支援に、特定の事業指定のご寄付は当該事業に使わせていただいております。

「グッドごはん」とは？

日本国内でも、子どもの貧困が大きな課題となっています。中でもひとり親家庭の状況は深刻で、十分な食事をとれないほど困窮している家庭は少なくありません。この状況を受け、グッドネーバーズ・ジャパン (GNJP) は2017年より、低所得のひとり親家庭に向けた支援として、フードバンク事業「グッドごはん」を開始しました。当事業では、首都圏、近畿、九州の活動拠点*にて、対象世帯へ毎月無料で食品配付を行っています。

*2025年12月現在の活動対象地域

2025年も物価の高騰が続き、中でもお米をはじめとする食料品の値上がりは、多くの困窮家庭にとって深刻な負担となりました。「グッドごはん」では、そうした状況に対応すべく、全拠点でお米を毎月欠かさず配付するなど、ひとり親家庭の食卓を支える一助となるよう活動しました。6月には、月間配付世帯数が過去最多となる5,600世帯に到達。食品支援ニーズの高まりを強く実感する1年となりました。

さらにGNJPでは、食品支援にとどまらず、子どもたちが興味や好奇心を育めるような体験の場を創出する取り組みにも注力しました。グッドごはん利用家庭を対象に、企業や教育機関等と連携した多様なイベントを実施し、多くの子どもたちの笑顔が生まれました。



”心も満たす”支援を目指して

日々の生活で孤独を抱えるひとり親家庭は少なくありません。GNJPがグッドごはん利用者へ行った調査[*1]では、「ひとり親家庭になって以降、“生活や子育てを自分ひとりで背負っている”と感じることが増えた」と回答した方が約7割に及びました。

こうした背景を受け、グッドごはんでは対面での食品配付などを通じて、利用者が人や社会とのつながりを感じられる環境づくりに努めています。

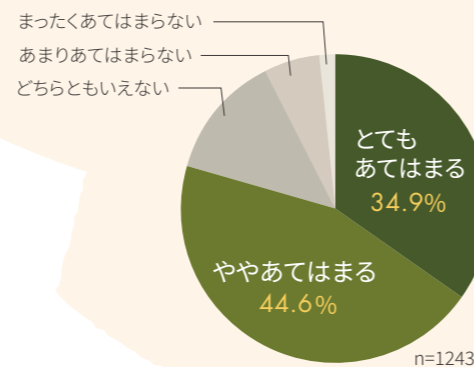
別の利用者調査[*2]では、約8割の方が「グッドごはんを利用して以降、“頼れる場所がある”という安心感を得られるようになった」と回答。グッドごはんの利用後「子どもの笑顔が増えた」「一人じゃないと思えるようになった」といった声も多く寄せられ、心の面にも前向きな変化をもたらしている様子がかがえました。

*1 GNJP「ひとり親家庭における周囲の人や社会との関わりに関するアンケート」2025年8月実施

*2 GNJP「グッドごはん利用前後の暮らしに関するアンケート」2025年10月実施

「グッドごはん」を利用して以降の変化

頼れる場所があるという安心感を感じられるようになった



延べ10,000世帯超に届けた夏の支援

学校給食のない長期休み期間は、家庭の食費負担が増し、経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭では、十分な食事を用意することが一層困難になる傾向があります。グッドごはんでは、こうした課題に対応し、長期休み期間の支援を強化するため、7月、8月には「夏休み“子どもの食を守る”支援プロジェクト」を実施。多くの企業・法人、個人の皆さまからの力強いサポートを頂き、価格高騰が続くお米のほか、野菜やお肉をはじめとする栄養面に配慮した食品を重点的に配付して延べ10,706世帯への食品支援を行いました。さらに、冬休みを迎える12月には、クリスマスやお正月を楽しめる食品やプレゼントをお渡しする冬の特別企画を実施しました。



食品を受け取る仮装した子どもたち

子ども3人のシングルマザーで病気をし、仕事日数も前より減り、収入も減ってしまいました。どうか節約でやりくりするために、食事はいつも自分の分は残り物で過ごしていました。こういった支援をいただけ、なんとか自分の食事もしっかりとれるようになりました。お陰さまで体力も少しずつついてきました。本当に感謝しております。

グッドごはん利用者の声

一時期(子どもが)学校へ行けなかった時があり、その際、食品配付と一緒に付いて来て、現場のスタッフの方とちょっとしたお喋りをした事や、子供向けの季節のお菓子を持たせて頂いた事などが、彼女にとってとても温かい出来事となり、今は頂いた食品は大切に食べつつ、お料理を積極的に手伝ってくれる様になった。本当に感謝です。



衣服無償提供イベントに参加する親子

子どもたちの可能性を育む体験を

子どもたちは、さまざまな体験や人との関わりを通して、健やかに育ち、豊かな感性を育んでいきます。GNJPでは2025年も、家庭の経済的事情によりこうした体験機会を得にくい子どもたちへの支援施策として、グッドごはん利用家庭を対象とした各種イベントを実施しました。支援企業さまとの連携による空港見学会やものづくり体験など、年間9件のイベントを実施。株式会社ビームス様の企画・ご協力のもと開催した衣服無償提供イベントでは、参加した親子が社員の方々からコーディネートのアドバイスを受けながら洋服選びを体験しました。こうした取り組みを通じて、子どもたちが人とのふれあいや新しい発見に出会える機会を広げるための支援を行いました。

【グッドごはん】

“子どもの食を守る”支援プロジェクト

スポンサー企業・団体さま (一部五十音順・敬称略)

●夏のキャンペーン

アサヒグループ食品株式会社/MUSビジネスサービス株式会社/大阪ガス株式会社/カラーズ株式会社/株式会社ケーエスケー/株式会社コロノマカロニー/株式会社ジャムオブワンダー/株式会社すこやか/ドイチエ・アセット・マネジメント株式会社 (DWS)/株式会社乃村工藝社/株式会社マルジュウ/医療法人社団 澄鈴会 箕面神経サナトリウム/森永乳業株式会社

●年末(冬)のキャンペーン

株式会社アルトスター/キッコーマン株式会社/株式会社KDC/株式会社サン・スマイル/J.P.モルガン/認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン/株式会社ダイショー/ネッサー株式会社/株式会社パソナフォスター/プリンシパル・グローバル・インベスターズ株式会社/株式会社三井住友銀行/株式会社明治 西日本支社/横浜ゴム株式会社/YOKOHAMAまごころ基金

●夏のキャンペーン+年末(冬)のキャンペーン

株式会社あおぞら銀行/株式会社青山財産ネットワークス/アクセンチュア株式会社/アリスタ フードソリューションズ ジャパン株式会社/特定非営利活動法人 希望のひかり (エコサイクル株式会社)/サントリーホールディングス株式会社/株式会社GSI/株式会社スズカ未来 タスカル事業部/タペストリー・ジャパン合同会社/株式会社パソナグループ/三井住友トラストグループ/株式会社三井不動産ホテルマネジメント/ムサシノ機器株式会社 (もくたん工房)/株式会社 吉野家

※ 食品配付世帯数 63,456世帯
 ※ 食品を受け取った子どもの数 108,415人
 食品配付実施回数 497回
 ※ ボランティア人数 1,625人
 イベント実施回数 9回
 ※ イベント参加者数 254世帯 563人

※2025年1月～12月の延べ数

他団体との連携による格差是正への支援活動「休眠預金活用事業」

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、一般財団法人日本民間公益活動連携機構が公募する「2024年度 物価高騰及び子育て対応支援枠<第3回> 休眠預金等活用法に基づく資金分配団体」に選定され、子どもの「食」や「体験」に課題を抱えるひとり親家庭等を支援する実行団体への資金的・非資金的サポートを開始。東京都・大阪府・佐賀県・福岡県の7団体による地域に根ざした活動の後方支援を行いました。



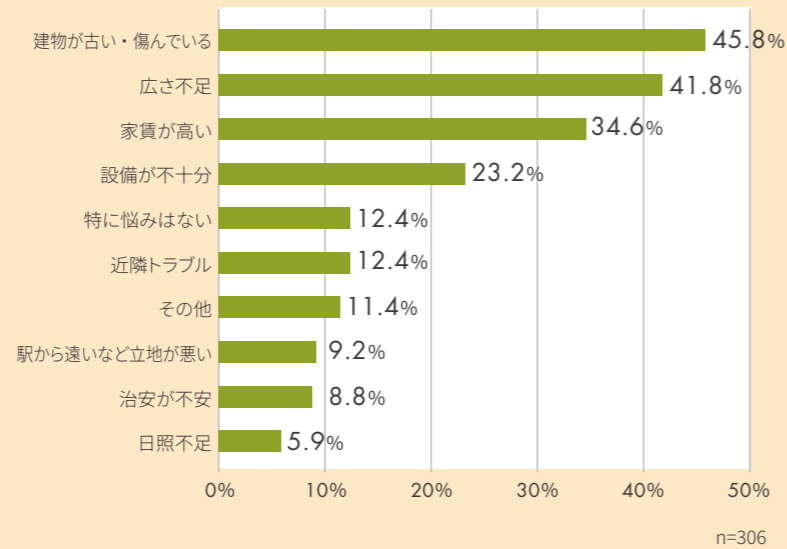
大阪府の支援団体「一般社団法人タウンスペースWAKWAK」の活動風景

ひとり親家庭の住まいの困難に寄り添う新たな取り組み「居住支援事業」

GNJPIは、生活に困難を抱えるひとり親家庭への支援をさらに広げるため、居住支援事業に向けた取り組みを開始しました。その一環として、東京都23区内にお住まいの「グッドごはん」利用者を対象に調査*を実施し、住まいに関する不安や悩み、部屋探しで直面する困難など、多岐にわたる課題やニーズを把握。ひとり親家庭が安心して暮らせる住まいの実現に向けた基盤づくりを進めました。

*GNJP「東京都23区内に居住するひとり親家庭(グッドごはん利用者)の住まいに関するアンケート」2025年9月～10月実施

現在の住まいに関する悩みや不安



能登

Noto, Ishikawa

支援の背景

2024年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県能登地方に甚大な被害をもたらしました。同年9月には記録的な豪雨が再び被災地を襲い被害は拡大し、復旧・復興活動が遅れる要因となりました。長期化する避難生活によるストレスや、子どもの心のケアなど、多くの課題を抱えており、今なお生活の再建が困難な状況が続いています。



クラフトづくりに取り組む住民の方々とGNJP職員



仮設住宅での孤立を防ぐためのコミュニティ支援活動

震災後、仮設住宅への入居が進みましたが、特に単身高齢者や家族・地域とのつながりを失った人は孤立しやすい状況でした。これを受けグッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、七尾市内3か所の仮設住宅でサロン活動及びイベント活動などのコミュニティ支援を実施。サロン活動ではお茶や会話をを楽しむ場を、イベント活動ではゲームや制作など誰でも参加できる場を提供しました。当初は平日昼間に開催していましたが、現地の声を受け夕方以降や週末の開催を増やしたところ、仕事帰りの男性や家族連れ、お孫さんと一緒に参加される方など、幅広い層の参加へと広がりました。住民の皆さんの声に寄り添い、安心して暮らせて、誰もが参加できる交流の場づくりを続けています。

子どもたちへの心理社会的支援プログラムを実施

震災後の心の傷を忘れ去るのではなく、向き合うことで健康な心を取り戻すことを目的として、GNJPは七尾市の小学校の児童を対象に心理社会的支援を実施しました。プログラムでは写真や絵を用いた二次元表現からはじめ、粘土でジオラマを作る三次元表現へと発展させていきます。「ジオラマ制作」では「和倉の町」をテーマに、子どもたちが意見や思いを出し合い、町を作りあげました。完成後には家族や地域の方を招き、ジオラマに込めた思いや注目してほしいところを発表しました。保護者の方からは「毎回楽しみに通っていて気になっていた。見ていて楽しかった。」「子どもたちの居場所になっていると感じています。」といった声が寄せられました。



ジオラマ制作のために話し合う子どもたち

子どもたちを中心とした心理社会的支援プログラムとしての映画制作

GNJPIは心理社会的支援プログラムの最終段階として、「映画制作」に取り組みました。子どもたちを中心に、映画の企画やメッセージを話し合っテシナリオを制作し、出演者、各種スタッフなどの役割を子どもたち一人ひとりが担いました。本プログラムを監修する精神科医の桑山医師は「物語を考え演ずることで想像力を取り戻し、心の整理が進み、震災の経験と向き合うためのエネルギーを得ることができる」と述べています。また、映画のスピンオフ作品として、能登の支援に尽力されている俳優の常盤貴子さんや地元の七尾市民劇団「劇団N」にもご出演いただき、被災の経験と向き合いながら、前を向いて生きる子どもたちの姿を描いた作品「ななおの海」も制作しました。



「ななおの海」にご出演いただいた常盤貴子さんと子どもたち

〈その他2025年実施事業〉

- 石川県七尾市における被災地活性化支援 (JPF=ジャパン・プラットフォーム)
- ななおスマイルフェス開催事業補助金 (七尾市)

※本記事の事業はすべて、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。

子どもスポンサーとは？

国内外の子どもたちを支える毎月定額の継続寄付プログラム。

国内では、ひとり親家庭への食品支援事業「グッドごはん」への支援を通じて、子どもたちの生活を支えます。

海外ではアジア・アフリカ6か国の子どもを対象に、支援地域の子どもたち全体を支援する「みんなの成長を見守るコース」と、ひとり子どもを継続的に見守る「ひとりの成長を見守るコース」とがあります。

2025年活動のご報告

2025年、国内では「グッドごはん」を通じ、物価高騰で支援ニーズが高まる中、毎月お米を配付することができました。利用者からは食の安心に加え「子どもと向き合う時間が増えた」などの声が寄せられています。

海外ではカンボジア、ネパール、バングラデシュ、エチオピア、チャド、モザンビークの6か国で子どもスポンサーシップを継続し、教育や保健衛生の改善に取り組むとともに、複数の国で緊急・開発支援も実施しました。

国内外で子どもたちの未来を支える活動ができたのは、子どもスポンサーの皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

「みんなの成長ノート」のご紹介

「みんなの成長ノート」は、海外子どもスポンサーの皆さまに毎月お届けするメールニュースです。毎号、異なる国の文化や暮らしを紹介し、その地域で暮らす支援対象の子どもたちの成長を、手紙や写真とともにお伝えしています。

今年の成長ノートでお届けしたエチオピアとネパールの子どもたちをご紹介します。



トウズタちゃん 8歳

エチオピア南部のシダマに、父親、母親、兄弟2人、姉妹1人と暮らしています。今、小学校の3年生です。好きな場所は学校で、かくれんぼをするのが好きです。



2019年

2024年



ヴィチェカくん 12歳

カンボジアのオーチュロープに父親、母親、姉妹1人と一緒に暮らしています。真面目な性格で、一番大切にしているのは家族です。将来の夢は警察官になることだそうです。



2021年

2025年

支援者さま現地訪問【ネパール】

2025年、「ひとりの成長を見守るコース」でネパールの子どもの支援してくださっている中田さまと渡邊さまが、サポートしている子どもが暮らす家や学校を訪れ、子どもやその家族と対面されました。

●中田さま

ネパールに到着後2日半ほどの車移動を経て、北西部の山岳地帯にある「バジュラ」という地域を訪れ、2021年から見守ってくださっているピカシくんとお会いしました。

ピカシくんにお会いすることができ、家族と元気に暮らしている姿を見ることができたことが一番嬉しかったです。彼の笑顔は、私にとって一生の宝物になりました。



左から中田さま、ピカシくん、一緒にご訪問されたご姉妹

●渡邊さま

手紙のやり取りをしていたラクシュマンくんにお会いするため、インドとの国境近くの地域「ダンガルヒ」を訪れました。

親戚が1人増えたような感覚です。今まではすごく遠い存在で寄付だけしているという感じだったのが、会ってみて“身近なつながり”になりました。



左からラクシュマンくんのお母さん、渡邊さま、ラクシュマンくん、一緒にご訪問されたご友人

支援者さまと子どもの手紙による交流

「ひとりの成長を見守るコース」では、サポートしている子どもへ手紙を送ることができます。支援者の方の言葉は、遠く離れた場所で生きる子どもにとって大きな励みとなり、子どもたちも自分の成長や日常の様子、夢や目標を手紙につづって支援者の方とのつながりを深めています。

●カサイさまより

こんにちは！
写真を見て背がとても大きくなったことに驚きました！ 沢山遊んで学んで経験を重ね、夢に向かって歩み続けてください！
これからもサポートできることをとても嬉しく思っています。



カサイさまからの手紙を受け取った子ども

●子どもよりお返事

こんにちは。お元気ですか？
お手紙をもらえてとてもうれしかったです。ぼくとぼくの家族は元気にしています。学校には毎日通っていて、一生懸命勉強しています。去年、ぼくは全国試験を受けて、無事に合格することができました。今年ももっと良い成績が取れるように準備を続けています。いつも応援してくれて、そして優しい言葉をかけてくれて本当にありがとうございます。あなたの励みは、ぼくとぼくの家族にとって大きな力になっています。次のお手紙まで、どうかお元気で過ごしてください。またね。

ウクライナ

Ukraine

支援の背景 緊急支援

ウクライナでは、2022年以降のロシアによる侵攻で都市やインフラが破壊され、数百万人が避難を余儀なくされています。また、戦争により地域の工場・学校が閉鎖され職を失った人々が多く、特に多くの男性が戦地に動員されたため、地域復興には女性の就労支援が不可欠です。

〈その他2025年実施事業〉

- ミコライウ州、侵攻及びカホフカ・ダム決壊による被災地における給水施設復旧事業 (N連)
- ヘルソン州における一部損壊被災家屋の修繕事業 (N連)
- 東部ドニプロペトロウスク州における脆弱世帯を対象にした現金給付、保護、心理社会支援複合事業 (JPF)
- 北東部ハルキウ州における脆弱な戦争被災者への現金給付、ケースマネジメント及び心理社会支援事業 (JPF)
- 東部ドニプロペトロウスク州における、脆弱な戦争被災者への保護、心理社会的支援、緊急避難キット配布複合事業 (JPF)



復興を支える女性たちへの職業訓練

グッドネーブーズ・ジャパン (GNJP) は2025年3月より、ウクライナ・ミコライウ州で女性を中心とした職業訓練と復興促進事業を実施しています。同州はロシアによる全面侵攻直後から約9か月間占領されていましたが、解放後には多くの住民が帰還しました。しかし復興には労働力が不足し、トラクター運転や建設技術など従来男性中心だった職務を女性が担えるようになる訓練が急務でした。本事業は復興支援だけでなく、女性の安定収入と自立支援も目的とし、建設技術や作業車両の運転に加え、会計・簿記や美容技術など多様なスキル習得の機会を提供しました。訓練を通じて仕事の感覚や自信を取り戻すきっかけとなり、「学べる機会があれば人生を変えられるかもしれない」との声も寄せられています。

※この事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力事業」です。



開講したクラス・コース

普通運転免許取得、トラクター免許取得、塗装工事、左官工事、美容、ネイル、マッサージ、英語、コンピュータースキル、簿記、履歴書作成指導、キャリアカウンセリング



マニキュアコースの様子



キャリアカウンセリングを受けている様子

左官・塗装コース 参加者の声

自分の手で何かを創り出したい、戦時下でも女性が建設技能を身につけられることを示したいという思いで参加を決めました。参加したコースは、仲間と支え合い学び合える、とても励まされる環境です。

塗装や左官の初歩から仕上げまでを学びました。女性たちが新たな専門職への道を切り拓ける機会になっています。別の技能にも挑戦して、将来的には復興に貢献したいと考えています。



左官・塗装コースで実際に塗装を行う参加者たち

ガザ

Gaza Strip

支援の背景 緊急支援

2025年10月、パレスチナ・ガザ地区において約2年間続いた戦争の停戦が発効されました。平和の兆しが訪れたものの、危機的な食糧不足や荒廃した生活環境は依然として極めて深刻な状態です。多くの家族が心に深い傷を負い、何十万人もの子どもたちは安全な住まいがなく、教育や医療サービスを受けられない状況が続いています。



ガザの人々と子どもたちへの食料と教育の支援

2023年10月の戦争開始以降、多くの学校は破壊され、残った学校も家を失った人々の避難所として使われているため、約66万人の子どもたちが学校に通っていません。

グッドネーブーズ・ジャパン (GNJP) は、2024年11月から2025年5月にかけて、戦争による食料危機が続くガザ地区において、5,617世帯 (27,688人) に温かい食事を提供し、その後教育支援にも着手しました。

2025年8月より現地教育省などが実施している支援プログラムに沿って臨時の学習スペースを設け、子どもたちが戦時下でも進級し、小学校を卒業できるよう支えています。また、戦争によるトラウマに対応するため、心理社会的支援も併せて実施しています。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。



臨時学習スペースでの授業の様子

シリア

Syrian Arab Republic

支援の背景 緊急支援

2024年12月のアサド政権崩壊後、国内外から約185万人の人々が戦前に住んでいた地域へ帰還しています。多くの家が破壊され、水道・電気、保健施設、教育施設などのインフラが失われたままの地域が数多くあります。また、長年の戦争によるトラウマを抱えている人も多く、心のケアなどの支援も急務となっています。



シリアの人々と共に復興を——食文化に合わせた食料支援

グッドネーブーズ・ジャパン (GNJP) は、シリアにおける深刻な人道危機を受け、2025年4月から6月にかけて

緊急支援を実施しました。現地パートナーと連携し、アレppo県、ホムス県、ラタキア県の3県で、延べ3,916世帯 (22,043人) に対し食料や衛生用品セットなどを配付。配付内容は援助機関間で調整された基準に基づき、パスタや米などの炭水化物、豆類のたんぱく質、缶詰の野菜やお茶など、現地の食文化を考慮し構成しました。

GNJPでは、上記緊急期から準備を進めてきた中長期的な復興支援事業も開始しています。現地の人たちの意向や課題に寄り添いながら、シリアの人々と共に復興に向けた取り組みを進めています。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。

〈その他2025年実施事業〉

- アレppo県における学校修繕及びコミュニティを中心とした生計向上、脆弱者の保護、社会的結束を通じた人道・開発・平和構築事業 (JPF)



食料セットを配付するスタッフ

支援の背景 **開発援助**

エチオピアでは近年、武装勢力の活動や地域・民族間の武力衝突による国内避難民問題が続いているほか、周辺国からの難民流入による受け入れ地域の負担も重いまです。通貨の下落と物価上昇により、食料や生活必需品の確保はさらに困難になっている事に加え、気候変動による干ばつや不安定な降雨が、人々の暮らしの脆弱性を一層高めています。

〈その他2025年実施事業〉

- ソマリ州アオバシおよびシェデル難民キャンプと周辺地域における難民の自立支援（シェルター・家畜支援）（N連）
- 北部紛争影響地域における復興支援プロジェクト（生計・教育）（JICA）
- アソサ地区シェルコレ難民キャンプにおける難民とホストコミュニティの生計向上及び社会的結束の促進フェーズ3（生計向上、平和構築）（JPF）
- ソマリ州で急増する避難民の再定住先コミュニティにおける医療サービスの改善と女性のエンパワメント支援（保健）（N連）
- 急性食料不安に陥るティグライ州における生計支援を通じた紛争被災コミュニティの早期レジリエンス強化プロジェクト（生計向上、貯蓄組合活動支援）（JPF）



養蜂研修に参加している様子

住民対話と協力を通じて
平和を築き、
地域の暮らしと学びを再建

エチオピア南部では、繰り返される民族紛争により不信感や再発への不安が続いています。農地や家屋の破壊

で多くの住民が生計を失い、貧困がさらに対立を加速させていました。

グッドネーブーズ・ジャパン（GNJP）はこうした状況を受け、生計向上と社会統合を柱とした平和構築事業を実施。生計向上のため、現地行政へ農業研修を行い480世帯に農作物の種を、300世帯に灌漑用ポンプを配付し生活基盤を整えました。社会統合事業では、双方の住民による平和委員会に対話や調停の研修を行い、対話セッションには延べ460名が参加しました。学校での平和教育にも3,820名が参加し、両民族が集う場所として2校で8教室を増築し、計2,147人の生徒が共に学んでいます。

※この事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力事業」です。



新しい教室でのびのびと学ぶ子どもたち

紛争で生計手段を失った
世帯へ——家畜と
技術支援で暮らしを再出発

北部ティグライ州では、長期の紛争により家畜や農地が失われ、多くの住民が主要な生計手段を喪失しました。

牛や羊、ヤギ、家禽、養蜂箱まで甚大な被害を受け、住民は支援に依存せざるを得ない状況でした。

これを受け、GNJPは2024年12月より生計向上支援を開始。240世帯にヤギや羊、310世帯に養鶏キット、100世帯に養蜂キットを提供し、家畜管理や養蜂の技術研修も実施しました。さらに地域金融機能再建を通じた、より効果的な生計向上のため、5村の貯蓄信用組合リーダー115名に研修を行い、資機材を提供。家畜繁殖や卵販売、蜂蜜生産が再開し、受益者からは「再び働ける希望が持てた」との声が寄せられ、生計回復の大きな一歩となっています。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。

モザンビーク

Republic of Mozambique

支援の背景 **開発援助**

アフリカ南部のモザンビーク共和国は、美しい自然に恵まれる一方、水や医療、教育施設が不足し、特に農村地域での衛生意識の向上とインフラ整備は急務となっています。安全な水や衛生的なトイレの不足に加え、サイクロン被害により学校や保健センターなどが損壊し、子どもたちの安全な学びや、住民の基本的な医療サービスが深刻な影響を受けています。

〈その他2025年実施事業〉

- WASH GAZA3（N連）
- 北部IDP支援に係る情報収集・調査案件（JICA）
- 北部ナンブラ州水衛生パイロット事業（JICA）
- 北部カーボデルガード州メトゥージェ郡農業・漁業支援（JPF）



修繕された保健センター



洗って繰り返し使える生理用ショーツを受け取り説明を聞いている生徒たち

子どもたちが安心して
学べる環境へ——
学校の水・衛生施設の
改善と保健室の整備

武力紛争に起因する国内避難民が多く暮らすモザンビーク北部カーボデルガード州ペンバ市では、学校の水・衛生設備が著しく不足し、トイレの欠

如や体調不良時に休める場所がないことが子どもの学びと健康に深刻な影響を与えていました。

グッドネーブーズ・ジャパン（GNJP）はこの課題に対応するため、同市の小中一貫校に給水施設、男女別トイレ、保健室2棟を整備。ハンドポンプ式井戸1基、トイレ1棟（男女各4室）、保健室2棟を建設し、ベッドやシーツ、生理用品、ごみ箱などを備え、生徒が落ち着いて休める環境を整えています。また学校・保護者・地域住民で水管理委員会を組織して給水設備の維持管理を共有する仕組みを導入し、地域主体で持続可能な体制づくりを進めています。

※この事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力事業」です。

サイクロンにより損壊した
学校と保健施設を修繕し、
学びと医療の場を再生

2024年12月、モザンビーク北部を襲ったサイクロン「チド」は、24時間で250mm超の豪雨と強風をもたら

し、各地に甚大な被害が及びました。特にカーボデルガード州の公共施設は深刻な被害を受け、学校では屋根や壁の破損で授業が困難となり、保健センターでは診察室や設備が損壊して住民が十分な医療を受けられない状況が続きました。こうした中、GNJPは教育や保健サービスの早期回復を目指し、被災施設の修繕事業を開始しました。

学校では屋根や窓を修繕し、安全な教室環境を整備。保健センターでは診察室や出産設備を再整備し、医療提供を継続できる状況を確認しました。再開後は「子どもが安心して学校に戻れた」「診療を受けられるようになった」との声が住民から寄せられています。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。

支援の背景 **開発援助**

ヒマラヤ山脈やチベット仏教など神秘的なイメージを持つネパール。一方で一人当たりGDPが低く、南アジア地域の中でも最も貧しい国の一つです。民族と複雑に結びついたカースト制度は格差を生み、都市部と農村・山岳地帯間の就学率や識字率の差、医療へのアクセス、インフラ整備などが課題となっています。また地震や洪水などの災害が、生活基盤をさらに脆弱にしています。



手洗いをする子どもたち ©Good Neighbors

子どもたちの健康を守る栄養と衛生環境の改善支援

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は極西部の山岳地帯、スドゥル・パッチム州ドティ郡において栄養・衛生環境の改善支援事業を展開しています。この地域は生活インフラが不十分で子どもたちは栄養不良と劣悪な衛生環境に苦しんでおり、小中学校を対象とした調査では47校中45校に給食施設がなく、多くの子どもが朝食抜きで徒歩での長距離通学をしていました。そこでGNJPは郡内の2地域8つの小中学校で、給食調理施設を建設し学校菜園を整備。男女別トイレや手洗い場を設置し、学校関係者だけでなく、地方自治体や住民を巻き込んで子どもたちが衛生的な学校生活を送るための環境を作りました。さらに教師や住民を対象に栄養や衛生についての啓発活動も展開し、地域全体で栄養状態を改善する体制作りを進めています。

※この事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力事業」です。

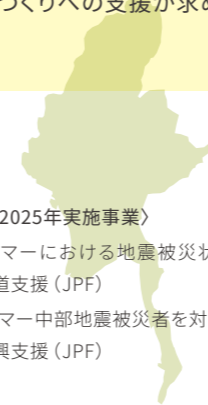


支援の背景 **緊急支援**

2025年3月、ミャンマー中部で大地震が発生し、特にシャン州の湖上に暮らすコミュニティで住宅被害が深刻化しました。竹材による伝統的な住居は損壊が大きく、多くの世帯が安全な生活を確保できていません。地震発生から数か月が経過しても復旧は進んでおらず、地域住民が自力で再建できる体制づくりへの支援が求められています。

〈その他2025年実施事業〉

- ミャンマーにおける地震被災状況調査及び緊急人道支援 (JPF)
- ミャンマー中部地震被災者を対象とした緊急生計復興支援 (JPF)



損壊した住宅再建に向け新たな施工技術も支援

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、2025年3月に発生したミャンマー中部地震で深刻な被害を受けたシャン州の湖上コミュニティを対象に、住宅再建と修繕支援を進めています。現地スタッフが全世帯を訪問して損壊状況を確認し、必要資材を洗い出しました。住民からは、より耐久性の高い木材を使った住居への改善要望も寄せられ、その活動を地域と協働で進めるためにGNJPのエンジニアが講師となり、安全な施工方法に関する研修を実施しました。参加者からは「正しい技術で安全な家づくりをしたい」との熱心な声も上がっています。地震から1年近くが経過しても支援が必要な世帯は多く、GNJPは安心して暮らせる住環境の再建を継続して支援します。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、2025年3月に発生したミャンマー



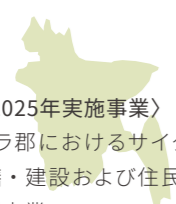
コミュニティへの説明会の様子 ©Good Neighbors Myanmar

支援の背景 **開発援助**

バングラデシュは近年、気候変動の影響が深刻であり、特に南部地域では毎年サイクロンによる甚大な被害が発生しています。環境破壊や防災力の低下が進む中、地域の防災レジリエンス向上は急務となっています。こうした課題に対応するため、植林による環境保全と災害被害軽減の取り組みが重要視されています。

〈その他2025年実施事業〉

- カラパラ郡におけるサイクロンシェルター修繕・建設および住民の防災能力向上支援事業



度重なる自然災害への防災力を高めるための植林事業

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は2025年7月より、ボリシャル管区パトゥアカリ県カラパラ郡およびタラトリ郡において環境保全事業を開始しました。本事業では、地域の防災力向上を目的に4,050本の植林を実施。マンゴーやグアバなどの果樹が住民宅の敷地に植えられ、将来的な収入向上や植林管理の持続性確保にも寄与することが期待されています。海岸・河川沿いでは若年層主体のボランティアグループが中心となり、防災林となるマングローブを植樹したほか、気候変動と自然災害の関係、植林の意義についてのレクチャーも行いました。さらに、事前のステークホルダー会議を通じて関係者間の連携を図り、地域全体で環境改善に取り組む体制を整えています。

※この事業は (公社) 国土緑化推進機構の「緑の募金」事業です。



ボランティアスタッフと地域住民の家で植林を行った様子

支援の背景 **開発援助**

タイでは、隣国ミャンマーの長引く内戦により、9万人以上の避難民が流入し、特に国境地域のメーソート郡では近年さらに増加が続いています。避難民の子どもたちはタイ語能力の不足や経済的困難から公教育にアクセスしづらく、多くが移民学習センター (MLC) で学んでいますが、教員不足や教材不足など教育環境には大きな課題があります。

タイ学習センター現場でのICT導入による難民の子ども達の教育環境改善

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、ターク県メーソート郡とポップブラ郡で、ミャンマー難民の子どもたちを対象としたタイ語教育のため、教育アプリを活用した支援事業を進めています。本アプリはタイ政府のカリキュラムに準拠し、教師が学習レベルに応じた授業計画を立てやすくすることで、指導力向上と学習の質改善を目指します。2025年9月にはGNJPスタッフがMLC5校で教師や校長、移民教育調整センター関係者への聞き取りと教育現場の調査を実施。入学希望者増加やタイ語理解に時間がかかる子どもへの対応などの課題も把握しました。事業ではこうした声を反映し、ICTを活用した学びを通じて、子どもたちがタイ社会で自立していくための基礎教育環境の充実を目指します。

※この事業は、ジャパン・プラットフォーム助成事業です。



タイ人教師がタイ語の授業を行う様子



主なメディア掲載

| | 掲載・放送日 | 媒体名 | |
|-----|-------------|--------------------|---|
| テレビ | 1月30日 | テレビ金沢「テレ金NEWS NNN」 | 『【地元でロケ】“心の傷”向き合いながら…「能登島を元気に」被災した七尾の小学生が映画製作』 |
| | 3月8日 | 北陸朝日放送 | 『七尾の小学生が映画で前向きな気持ちを届ける』 |
| | 3月 | 石川テレビ | 『能登半島地震を経験した児童が復興への願い込め製作した映画を公開』 |
| | 3月31日～4月13日 | ケーブルテレビななお | 『能登PSS上映会(田鶴浜)とPSSについて』 |
| | 4月23日 | NHK宮崎放送局「てげびび」 | グッドごはん利用者の収入・暮らしの状況に関する調査結果の紹介 |
| | 4月24日 | NHK | 『被災地舞台 短編映画の上映会 常盤貴子さんも出演』 |
| | 6月25日 | TBSテレビ「Nスタ」 | 『子どもの3人に1人「1日2食以下」低所得のひとり親家庭 給食のない夏休み』 |
| | 8月2日 | TBSテレビ「報道特集」 | グッドごはんの取り組みについて紹介 |
| | 8月30日 | 日本テレビ「24時間テレビ」 | 休眠預金活用事業の実行団体「一般社団法人タウンスペースWAKWAK」の活動について紹介 |
| | 12月4日 | 日テレNEWS NNN | 厚生労働省で実施した記者会見(グッドごはん利用者における年末年始の暮らしに関する調査結果発表)の様子を報道 |
| 新聞 | 2月2日 | 北國新聞 | 能登半島地震における仮設住宅への備品提供について紹介 |
| | 3月1日 | 東京新聞 | グッドごはん利用者の暮らしの状況に関する調査結果と当事者へのインタビュー内容について紹介 |
| | 3月23日 | 毎日新聞 | 『映画作りで心のケア NPO×石川・七尾の小学生』 |
| | 6月1日 | 読売新聞(九州・山口版) | 『ひとり親家庭が「衣服の貧困」、新調を「諦めた」7割…子ども用品リユース・お下がりが品交換が家計の助けに』 |
| | 6月26日 | 朝日新聞 | 厚生労働省で実施した記者会見(子どもの学校の長期休み期間中における食事状況に関する調査結果)について掲載 |
| | 7月15日 | 朝日新聞 | 『長期休み「1日2食以下」の子、3割超 物価高でより深刻「支援を」困窮する子育て家庭、NPO調査』 |
| | 7月17日 | The Japan News | 子どもの学校の長期休み期間中におけるグッドごはん利用者の食事状況に関する調査結果の紹介 |

新聞21件 / テレビ19件 / ラジオ1件 / WEBメディア96件 / 冊子5件 : 総計142件

ご支援・ご協力いただいた企業 (一部 五十音順・敬称略)

| | | |
|--------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 株式会社アートボックス | カルビー株式会社 | 株式会社ダイショー |
| 株式会社あおぞら銀行 | 合同会社 きさらぎインベストメント | 税理士法人東京パートナーズ会計事務所 |
| アサヒグループ食品株式会社 | 一般財団法人 木梨財団 | 一般社団法人なにわフードバンク しっかり食べや |
| 一般財団法人アズビル山武財団 | 特定非営利活動法人希望のひかり(エコサイクル株式会社) | 株式会社乃村工芸社 |
| アトミジャパン合同会社 | キリンビバレッジ株式会社 | 株式会社パソナフォスター |
| 株式会社アパハウスインターナショナル | 株式会社クラダシ | 一般社団法人 バンクフォースマイルズ コスメバンク事務局 |
| 株式会社アメリカンホーム | 一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか | 株式会社ビームス |
| 伊藤ハム米久フーズ株式会社 | 株式会社サン・スマイル | 株式会社ファミリーマート FamilyMart Co.,Ltd. |
| WeSupport Family | サントリーホールディングス株式会社 | 平和交通株式会社 |
| 株式会社LKキャピタル | J.P.モルガン | 三井住友トラストグループ |
| 大田区社会福祉協議会 | 敷島製パン株式会社 | 森永乳業株式会社 |
| 株式会社オンデーズ | 信一株式会社 | ヤフー株式会社 Yahoo!ネット募金 |
| 株式会社ガスバル | 認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン | 株式会社 吉野家 |
| 株式会社カタログハウス | | |

その他実施事業

本報告書P5～P16でご紹介できなかった事業を掲載しております

| 実施地域 | 事業内容 (助成事業) JPF: ジャパン・プラットフォーム |
|------|--|
| スーダン | スーダン北ダルフール州エル・ファシール避難民を対象とした生存のための緊急食料及び生活基盤支援事業 (JPF) |
| レバノン | レバノン人道危機食料・越冬支援事業 (JPF) |

決算書 2025年度収支計算書(2025年1月1日～12月31日)

| A 経常収益 | | (単位:円) |
|--------------|----------------------|---------------|
| 受取寄附金 | | 2,218,940,374 |
| 受取寄附金 | 1,522,973,714 | |
| 寄付物資収入 | 439,072,917 | |
| 施設等受入評価益※ | 256,893,743 | |
| 受取助成金等 | | 988,000,265 |
| ふるさと納税交付金 | 16,713,750 | |
| 休眠預金活用事業 | 80,882,168 | |
| 助成金・補助金収入 | 890,404,347 | |
| 事業収益 | | 58,867,745 |
| その他の収益 | | 282,282 |
| 経常収益計 | 3,266,090,666 | |

※低額で提供された施設や物資等の価値を収入として計上

| B 経常費用 | | |
|--------------------------------------|----------------------|---------------|
| 1 事業費 | | |
| 困難な生活環境にある子ども達およびその家族のための支援事業 | 海外 | 601,989,818 |
| | 国内 | 1,807,877,658 |
| 大規模自然災害または紛争等の発生時における緊急人道支援および復興支援事業 | 海外 | 353,841,770 |
| | 国内 | 54,598,839 |
| 物品の販売事業 | | 39,988,706 |
| 事業費計 | 2,858,296,791 | |
| 2 管理費 | | |
| | | 88,602,124 |
| 経常費用計 | 2,946,898,915 | |
| 当期経常増減額 (A-B) | | 319,191,751 |

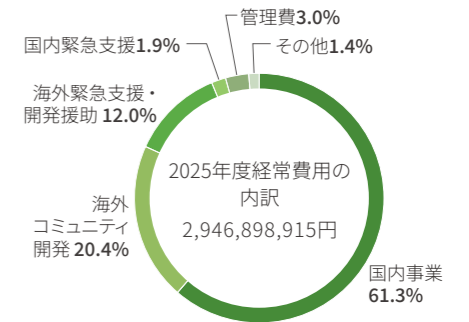
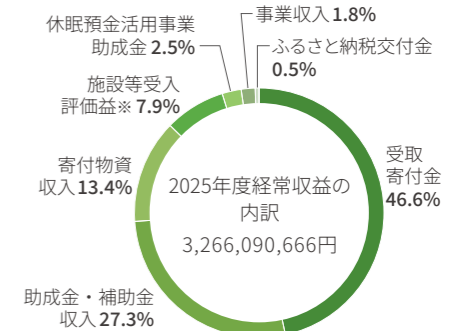
| | |
|--------------|---------|
| C 経常外収益(雑収入) | 710,898 |
|--------------|---------|

| | |
|---------|------------|
| D 経常外費用 | 31,226,767 |
|---------|------------|

| | |
|----------------------------|-------------|
| 当期経常外増減額 (C-D) | -30,515,869 |
| 税引前当期正味財産増減額 (A-B) + (C-D) | 288,675,882 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 201,000 |
| 前期繰越金 | 419,376,108 |
| 次期繰越金 | 707,850,990 |

貸借対照表(2025年12月31日現在) (単位:円)

| A 資産の部 | | B1 負債の部 | |
|-------------------|----------------------|--------------------|----------------------|
| 1 流動資産 | | 1 流動負債 | |
| 現金預金 | 850,700,426 | 未払金 | 102,238,529 |
| 寄付物資 | 52,464,965 | 未払費用 | 20,544,400 |
| 商品 | 1,506,959 | 預り金 | 1,507,369 |
| 貯蔵品 | 905,122 | 前受金 | 369,142,682 |
| 前払費用 | 6,130,224 | 未払法人税等 | 201,000 |
| 前払金 | 30,000 | 賞与引当金 | 18,300,000 |
| 立替金 | 426,276 | 流動負債合計 …③ | 511,933,980 |
| 仮払金 | 110,995,910 | 2 固定負債 | |
| 預け金 | 15,782,962 | 退職給付引当金 | 48,000,000 |
| 未収入金 | 176,317,408 | 固定負債合計 …④ | 48,000,000 |
| 流動資産合計 …① | 1,215,260,252 | 負債合計 ③+④ | 559,933,980 |
| 2 固定資産 | | B2 正味財産の部 | |
| (1) 有形固定資産 | 7,785,815 | 前期繰越正味財産額 | 419,376,108 |
| 建物付属設備 | 4,267,559 | 当期正味財産増減額 | 288,474,882 |
| 什器備品 | 1,446,798 | 正味財産合計 | 707,850,990 |
| 一括償却資産 | 2,071,458 | B 負債及び正味財産合計 B1+B2 | |
| (2) 投資その他の資産 | 44,738,903 | | 1,267,784,970 |
| 退職給付引当特定資産 | 34,000,000 | | |
| 敷金 | 9,817,350 | | |
| 長期前払費用 | 921,553 | | |
| 固定資産合計 …② | 52,524,718 | | |
| A 資産合計 ①+② | 1,267,784,970 | | |



サマリー

- 2025年度より円グラフの構成を見直し、繰越金を円グラフから除き、経常収入・経常費用の内訳としました。
- 事業費は経常費用総額の9割以上に当たる約28億6千万円となり、過去最大規模で活動を実施することができました
- 事業費の内訳は、国内事業が最大となる61%、海外事業が20%、また国内外での紛争や自然災害に対する緊急支援が計14%でした
- 経常収入は、皆さまからの寄付金が46%と最も大きな割合を占め、次いで助成金等が27%でした
- 休眠預金やふるさと納税を活用した新たな資金の獲得により、特定の収入源に頼らない運営を目指しています
- 当団体はNPO会計基準に従い、会計処理及び開示を行っています

監査報告書



アカウンタビリティセルフチェック 2021

これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック2021」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・財務・人材育成・情報の保護と共有)について当団体が適切に自己審査したことを示しています。



認定NPO法人 グッドネーバース・ジャパン

〒144-0051 東京都大田区西蒲田 7-60-1 ソメノビル7階

TEL : 03-6423-1768 E-mail : admin@gnjp.org

HP : www.gnjp.org

✕ (旧Twitter) @GNJapan

 gnjapan

団体公式  @gn_japan

グッドごはん公式  @gn_goodgohan